

「3. 11から1年経過」

1. 被災地の方から学ぶ

先日、ある団体が主催する例会に出席しました。例会のタイトルは

『「3. 11」から学ぶ 会社があるということ、働くということ』

～なつかしい未来を創造し小さな一流企業を目指す～

とあり、岩手県陸前高田市にある(株)高田自動車学校の田村社長が約1時間の講演をされました。このお話を聞いて分ったこと気付いたことを箇条書き的に書いてみたいと思います。

1. 自動車学校は高台にあって津波の被害はなく社員さんも生徒さんも全員無事だった
 2. しかし、街全体では大変な被害で会社の9割が消えた
 3. また、無事だった社員でも家族が被害に遭われて孤独になった人もいる
 4. 復興には「自立」が必要だが、経営者が相談に行くと社員を解雇せよとハローワークがいう
 5. 解雇された人がハローワークに行くと失業保険の受給を薦める
 6. しかし、失業保険の支給期間には限りがある(特例で延長されたとしても)
 7. 仮設住宅に入居しても期間は2年と決まっている(特例で延長の可能性はある)
 8. しかし、行政が描く街復興のスケジュールは5年後に5m盛り土を完成し8年後に街が出来る
 9. 被害を受けた方は、家族を失い、親族も失っているケースもあり頼るところがない
 10. 被害者に家族の絆がない上に、行政の復興へのスピード感が鈍いので「収入」と「住居」の両面から不安が襲ってくる(最終的には生活保護の可能性はある)
 11. その上、残った企業は「売上ゼロ」状態でありながらも買掛金の「支払い」という債務がある
 12. 「債務」という点では、個人も同じで財産が流失したにも関わらず「支払い」が残っている
 13. 街に残っている若い人たちに今必要なことは「仕事」であるが、失業保険の6割給付を経営者に無担保で貸付が出来れば「事業」が再開して、雇用が生まれて「活き金」になるが、失業給付状態では雇用につながらず若い人は街を離れて行く
 14. その為にインキュベーションカンパニー「なつかしい未来創造(株)」を作って8つの「事業」を起そうとしている
 15. 田村さんは満福農園を起して「事業」としてやっている
- などでした。他にもおっしゃった事があつたと思いますが、私は、田村さんの会社に財産があつたから助成金で給与を補助されながらも「売上ゼロ」という状態で社員を雇うことが出来たと思います。もし、会社に債務が残っている状態なら、このようには行かなかつたと思います。この話から、私は「内部留保」や「労働配分率」の問題を見つめ直す必要を痛感しました。

2. 「福澤心訓」

右掲は、広島の木原先生に教えて頂いた福沢諭吉の「心訓」と呼ばれているものです。それぞれ分りやすく書かれていますので、ここで講釈をたれる必要はないと思いますが、敢えて、第一にある「世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つという事です。」というものを味わってみたいと思います。

先程の田村さんは「アンネの日記」で知られるアンネ・フランクの父オットー・フランクが「アウシュビッツ」の獄房で「いつガス室に連れられるか分からない不安」と「する事が無い」という2つで死人が出たが、オットー

《心訓》

- 一、世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つという事です。
- 一、世の中で一番みじめな事は、人間として教養のない事です。
- 一、世の中で一番さびしい事は、する仕事のない事です。
- 一、世の中で一番みにくい事は、他人の生活をうらやむ事です。
- 一、世の中で一番尊い事は、人の為に奉仕して決して恩にきせない事です。
- 一、世の中で一番美しい事は、全ての物に愛情を持つ事です。
- 一、世の中で一番悲しい事は、うそをつく事です。

・フランクは獄房から出て仕事するイメージを思い続けたという話を紹介されて、「会社がない」「仕事がない」という絶望感を強調されました。

私は、17年前に阪神淡路大震災を経験していますが、この時と今回の東日本大震災の最大の相違点が「会社がない」「仕事がない」という点だと思います。失業給付や仮設住宅そして各地からの支援などを得て生活が出来ても「仕事がない」状態が続くのです。私は、気が小さいのかもしれませんが、1週間も宙ぶらりんな状態で過ごすことが出来ないと思います。(実際には、1時間でも無意味に過ごすのは難しいです)

この精神的に「仕事」という光がない状態では「不安」という恐怖が全身を蝕むと思います。私は、サラリーマン時代に、毎日、業務日報を書くだけ、あのJR西日本の日勤は作業があったが、私には作業がなく机で座っている状態が続き、3ヶ月もしない内に自立神経失調症になり、身体を壊した経験があるので「作業」がない時の心理状態が理解できます。この状態から脱出する特効薬は「仕事」しかないのです。

福澤心訓の第1項に「世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つという事です。」と書かれているように「仕事」が非常に大事なのですが、平素は、4項に書いてあるように他人を羨み、5項に反して不足や不満ばかりで生きているケースが多いのです。本当に、福澤心訓を再度噛締めたいと思います。

3. 一隅を照らす

右掲は、比叡山延暦寺を開き日本天台宗の宗祖である最澄が著した『山家学生式』(さんげがくしょうしき)の冒頭部分に記載されているものです。この最後にある「一隅を照らす、此れ即ち国宝なり」という行が有名ですが、「径寸」とは金銀財宝のことで、「一隅」とは、今いる場所のことを指し、つまり、「一隅を照らす」が意味するところは、「お金や財宝は国の宝ではなく、家庭や職場など、自分自身が置かれたその場所で、精一杯努力し、明るく光り輝くことのできる人こそ、何物にも代え難い貴い国の宝である。」ということだと教えています。(かながわ福祉サービス協会のHPより参照)

『山家学生式』
国宝とは何物ぞ
宝とは道心(どうしん)なり
道心ある人を
名づけて国宝と為す
故に古人(こじん)の言わく
径寸十枚(けいすんじゅうまい)
是(こ)れ国宝に非(あら)ず
一隅(いちぐう)を照らす
此(こ)れ則(すなわ)ち国宝なりと

このように、与えられたポジションを精一杯の努力で守り抜くことが重要なのですが、福澤心訓の5項にあるように「羨み」の心で他人と比較してしまい「隣の芝生は青い」というように上辺だけを見て自分で腐ってしまうという性癖が人にはあるのです。確かに、自分はこんな器ではないという気持ちをもつことは理解できる場所がありますが、好き嫌いで自分に合わない仕事を転々とする方もいらっしゃるのです。私は、「石の上にも三年」という諺が教えるように、環境が合わないことがあっても長年いると周囲も暖かくみてくれるようになるという事が重要と考えています。このように、我慢することが重要なのですが、最近の方は「お膳立て」が出来てすんなりと迎え入れられると思っ

ているように見えるのです。
伝教大師とも呼ばれる最澄が「一隅を照らす、此れ即ち国の宝なり」と結ぶように、それぞれが持分をまっとうしてこそ世の中全体がうまく絡み合い良くなって行くのです。その心構えを福澤論吉が心訓として七か条として教えているのです。前項とあわせて噛締めたいと思います。

4. 「会社があるということ、働くということ」

少し回り道しましたが、今、当たり前とと思っていることが、災害というもので奪われた方の窮状を思い、田村さんの講演では「会社があるということ、働くということ」としていますが、勤めたくても会社

がないので働けない方のことを思えば、非常にありがたい話なのですが、そんな「当たり前」と思っていることに感謝をしていない状況があるのです。実に、困った状態なのです。

私は、大阪に住んでいますので、東日本大地震についてはTVの映像を通してしか目にしていないので、実情を他人事のように見てしまっているのです。田村さんから「売上ゼロ」「仕事ゼロ」「借金ばかり」「お客様を失う」と立て続けに教えられても断片的に理解できても総合的に理解はできないでいます。まさに、双眼鏡で見ている感じで臨場感に乏しいのです。

田村さんが「会社があるということ、働くということ」とおっしゃる度に、自社が創業17年で、お客様にも社員にも恵まれて経営が出来ているのだと感謝の念を思うのです。「福澤心訓」や「一隅を照らす」という格言をよく勉強して、「空」な心境に近づきたいと思っています。幸い、今年は、63歳になり年金の所得比例部分を頂き、贅沢にも妻ももらっているという恵まれた環境、さらに、全てのローンが返済できたので住宅も会社も自分のもので家賃が不要という状況であります。この経済的な優位を活かして、三男を含めて全員で4名の会社なのですが、「一隅を照らす」を実践して「国の宝」「お客様の宝」となっていきたいと願っています。

【まとめ】

1. 東日本大震災の状況は、双眼鏡で見ているようなものである
2. 「福澤心訓」から「仕事」の大切さを再確認
3. 「一隅を照らす」の精神で、あれこれ迷わず自分のパートを大切に守りたい
4. 「会社があるということ、働くということ」&「お客様があるということ」に感謝したい

【AMIニュースのバックログは<http://www.web-ami.com/siryu.html> でご覧になれます！】